

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

引き込まれる絵本の力、読み手の力

絵本でこどもたちにつたえたいこと



大障教新転任歓迎教研②

6月3日(金)に、第2回新転任歓迎教研が阿倍野区民センターで開催されました。講師に絵本作家の長谷川義史さんを迎え、「絵本で子どもたちにつたえたいこと」と題して、絵本ライブが行われました。今回は会場でのリアル参加形態で、平日の夜の開催となりましたが、45名の参加がありました。

早速、絵本「たこやきのたこやき」をラジエクターで大きく映し読んでくださり、ほんわかした独特の語り口に、いっしょに長谷川さんの絵本の世界に引き込まれました。笑いのなかにも、コンプレックスを抱える主人公の思いやそれを見守る家族、知っている絵本でしたが、深いメッセージが込められていることを知りました。絵を描く仕事をし



言葉に抑揚をつけて
楽しく絵本を読む長谷川さん

ながら、ようやく絵本作家として出版できるまでのお話しをしてくださり、デビュー作「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」を紹介し、『みんな父と母がいて生まれてきて、ひとりも欠けずにつつながらついている』、『人が人を殺していく、戦争なんてあほなあって』とウクライナの情勢に触れ、平和、憲法への思いを話してくださいました。次に、模造紙に絵を即興で描く「ライブ紙芝居」では、さらさらと筆で描きながら、テンポよくお話しが進み、会場は笑いに包まれました。最後に、絵本「平和ってすてきたな」では、沖縄の与那国島に住む小学校1年生の詩に絵をつけた内容で、会いに行ったときに彼の「平和な時に生まれて

参加者の感想

- 〇とってもいい時間を過ごさせていただきました。戦争と平和について、人・家族・学校から、日本・世界中の国々までたくさんの人のつながりについて等々、いっぱい広がって、楽しさが何倍にもなりました。絵本っていいですね。
- 〇知っていた絵本も先生の読み方でとても引き込まれました。絵本の力、読み手の力、すごいと思いました。
- 〇絵はユーモラスでわかりやすい おもしろい中に、涙が…。ありがとうございます。平和がいっまでもつづきますように。
- 〇なかなか絵本の読み聞かせを聞く機会がないので、貴重な経験になりました。「みんなつよくてみんなよわい〜」のフレーズなど、考えさせられる言葉がいっつもありました。

よかったよ」という言葉を紹介し、『わたしたちは平和をいただいた、それを放棄してはいけない、何かしないといけない』、と平和への願いを力強く語られました。読み方についての質問では、『個性を大事に、テクニクではなく気持ちで読むこと、

うまいへたではない」と励ました。ウクレレで歌も披露してくださいました。さり、作詞をされた「子どもたちGO」の歌詞がとてもよかったです。ぜひ検索してみてください。

何かして!

「教室不足」「過大・過密」「長時間通学」「教員不足」



各分会に記入用紙をお渡ししています。
みなさんの声をお寄せください。

支援学校の「教室不足」による教室転用や、詰め込みの「圧縮学級」、長時間通学など、劣悪な教育条件の実態や、みなさんのねがいをお寄せください。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の

さすいじ

青年教員が、「評価・育成システム」の目標設定で校長から「書き直し」を求められたそう。内容を聞くと、「〇を〇回実施するなど、数値目標を記載するように」とのこと。「システムにおける評価」は、校長の示す「学校経営計画に対する貢献度」ではかられ、教育に対する熱意や創意工夫に対するものではない。校長も、数値目標がないと評価できないということだろう。くだらない。

部会で、学校ブログ充実が提案された。管理職業務だった内容が教職員業務に付け替えられたものだ。「なぜ、学校ブログの充実が必要なのか？」と質問すると、提案者の返答は「学校経営計画に記載されている」だった。この数年で、会議は「論議の場」から、「学校経営計画を具体化する場」へと変質させられた。

学校教育法には「教諭は児童の教育をつかさどる」と明記されている。天皇主権の国民学校令には「訓導は、学校長の命を承け児童の教育を掌る」と明記されていた。訓導は、今の教諭にあたる。重要なのは、主権が国民に移った結果、「学校長の命を承け」が削除されたこと。「教員は子どもの教育に直接責任を負う」ことを主権者国民から負託されたのだ。負託されたその権限は、子どもの成長と発達に寄与するという文脈で理解する必要がある。

「評価・育成システム」の目的は、私に言わせれば「校長権限の強化」であり、それを通じた政治と行政による「学校支配」の方策ではない。時代に逆行する制度より、普遍的価値や真理・真実に基づいて自身の頭で考え、主張する教員を養成することが未来の教育を支える。

すべての子どもたちが 大切にされる教育を実現しよう

第34回大阪の障害児教育をよくする会総会

6月12日、大阪府教育会館において、第34回大阪の障害児教育をよくする会総会が開催され、オンライン参加と合わせて9団体46人が参加しました。

2022年度の活動方針・予算案・総会アピール・役員体制が承認されました。学習では、村田信子さん（全教障害児教育部長）が「障害のある子どもたちにゆきとどいた教育を届けよう」―父母と関係者の運動で勝ち取った「設置基準」制定、35人学級を力に―と題して講演しました。

いまこそ支援学校の新校整備を求める運動をすすめよう



あいさつする岩田会長

開会あいさつの中で会長の

岩田美穂さんは、「府立支援学校の『過大・過密』はほとんど進行し、3月に発表された文科省の公立特別支援学校の教室不足調査は全国ワーストの528教室でした。この公表を受けて、大阪の支援学校を上げよう」と訴えました。

校の『教室不足』の実態や私たちの支援学校の新校整備を求める運動がテレビや新聞で報道されるなど、注目されています。いまこそ大きく運動を上げよう」と訴えました。

私たちの運動の先にねがいをかなえる未来がある

学習会講師の村田さんは、10数年にわたる保護者、市民、教職員の共同による運動によって特別支援学校にできなかった「設置基準」を制定させた意義について、歴史を振り返りながら説明しました。「1970年代、養護学校義務制に向けて『7か年計画』が打ち出され、国庫補助

率の引き上げもあり7年間で約300校の養護学校が整備された」と語りました。また、「いま、設置基準の制定によって、『教室不足集中取組期間』が設けられ、国庫補助率も3分の1から2分の1に引き上げられた」と述べ、「さらに集中取組期間の延長と国庫補助率を3分の2まで



それぞれのねがいを掲げる参加者のみなさん

大障教定期大会 発言ダイジェスト (その3)

支援学校増設を求める署名を広げよう

寝屋川支援学校分会 門田代議員

寝屋川支援分会では、支援学校増設を求める直接請願署名のとりくみが始まった4年前から、積極的に署名を集めようとがんばってきています。

知的の支援学校は、どこも「過大・過密」で大変な状況ですが、とりわけ寝屋川支援学校では小学部の子どもの数が府下最多となっています。署名を呼びかけるにあたって、PTA役員と分会とで懇談の場を設け、支援学校のこれまでの児童生徒数の動きや現状、将来推計などを説明しています。役員のみならずは自分のこととして受け止められ、毎年1000筆以上の署名を集めてくださっています。

さらに、寝屋川の親の会とともに寝屋川市駅前での街頭署名にもとりくんでいます。

分会長がマイクで訴える中、自分もできる限り声を出して署名のお願いをしました。街の人たちは足を止めて応じてくださり、中には「職場で集めてくるわ」と署名用紙をたくさん持ち帰ってくださる方もいました。1時間の署名活動の後に全体で集約して100筆近くになった時には、「すごいな」と感じ、参加者で成果を喜び合いました。

街頭署名活動でも関心を持ってくださることが実感できた今年も請願署名のとりくみが行われます。みなさん、ともにがんばりましょう。

全国奇宿舍学習交流集会 inおおさか

7月30日(土)～31日にたかつガーデンにて全国奇宿舍学習交流集会が開催されます。開催にあたって、奇宿舍に関係する方たちはもちろん、奇宿舍の存在は知っているけど、どんなことをしてるのかは知らなかったり、また、奇宿舍って何?といった方たちにも学習会に参加してもらえるように、事務局で話し合いをかさねました。

よりよく生きる場所の一つとして奇宿舍があること、また、いろんな人たちの居場所づくりのために、たくさんの人たちが頑張っていることを知ってもらえるようにと、テーマは「めっちゃええやん ええとこみつけ!! うちの味方大集合」としました。

学習会に参加してもらって、奇宿舍と居場所づくりで奮闘している人たちの実践や魅力に触れてもらい、これからの大障教、奇宿舍運動前進のきっかけとして、この学習会がそうなれるように準備していきますので、たくさんの方の参加をお待ちしております。

